

6日午前 公民館での高齢者の方々との交流

①地元の祭り「鹿踊り」の説明を聞く



②じゃんけん交流



③願い事短冊作成



④オリジナル団扇作成



中央：現地でいろいろなコーディネートをしてくださったボランティアの水野さん



6日午後 盛町にて七夕ボランティア

盛の七夕会場にあったくす玉飾り



願い事風船受付ボランティア



リリース準備



大船渡東高校生徒会も合流



開会セレモニーで紹介される会長



バルーンリリース



願いとご短冊受付ボランティア



山車



7日午前 大船渡東高校生徒会との交流

大船渡東高校にて（生徒会室）学校交流（手形絵作成）



学校交流（学校紹介）



7日午後 盛町にて七夕ボランティア

短冊受付ボランティア（2日目）



最終日 ホテル出発前



奇跡の一本松見学



### 生徒感想【抜粋 2人分】

私はテレビや新聞で見ただけではなく、実際に現地へ行って見て肌で感じたい。そして被災した方々のお話をお聞きしたいと思ったので参加しました。

東北に着いたとき、私は驚きました。「え、まだ復興していなかったの…」これが最初に思ったことでした。3月11日にテレビ番組の特集などで取り上げられているのを見てもう震災があつてから7年だからけっこう変わってきているなという印象でした。しかし、私の想像以上な姿を東北はしていました。まだ津波がきたままの建物、工事車両の多さには言葉が出ませんでした。あと15年はかかると聞いたとき、被害の規模の大きさがわかりました。それでも、永浜地域公民館の方や、大船渡東高校の生徒さんはとても明るく、元気をもらいました。願いごと風船の活動のときに出会った方に直接お話をしてもらえたことは、とてもよかったです。

この東北ボランティアで、人との関わり大切さを改めて認識しました。これからの人生の中で出会う全ての人に感謝することを忘れずに今を生きていきます。

私は、サマーセミナーで講座を出すにあたって、東北について調べる機会がありました。これまでに東北に足を運んだ人の感想を見てみると、実際に現地に行ったからこそわかる事があつたと書いている人がたくさんいて、テレビやインターネットなどで調べるだけでは足りないんだなと感じ、行ってみたいと思い参加しました。

私が現地に行って感じたことの1つ目は、バスの中から景色を見ると新しく建てられた建物がたくさんあり、どれだけ大きな震災の被害を受けたのかが分かりづらくなっていることです。私は初めて東北に足を運んだので、震災があつてから今までの景色の変化を知らず、ここは前にこうだったと説明がなければ何も感じずに見て通り過ぎてしまうと思いました。2つ目は、現地の方々の温かさです。私が住む愛知では、お店の定員さんの中には真顔だったり、冷たい接客をする人がいるのが当たり前のようにいます。でも東北の方々は誰に対しても笑顔で接していて、なんでもかはわからないけど愛知と何が違うように思えました。

公民館でのお年寄りさんとの交流では、私たちが来るのを楽しみに待っていたと歓迎していただきました。私がお話した金野さんの、「得意不得意があつて当たり前、得意なことはもっと頑張って伸ばせばいいし、苦手なことは完璧になんてしなくていいからそれなりに頑張ればいい、それが個性であり人間らしさでもある」という言葉はたくさんを経験したからこそ出る言葉なんだと思ったし、これから先生きていく上で自分の中で大切にしたい、忘れられないものになりました。

七夕ボランティアや大船渡東高校さんとの交流なども通して、自分が東北に足を運ぶことによって、誰かが笑顔になったり元気になったりするのなら東北に行き続けたいと思いました。